十三仏板碑一字一石経塚

平成２年４月27日市指定文化財

▲武内神社　▲出土した十三仏碑などを安置した堂

▲出土した十三仏碑の一体

古賀市小山田458番地、宅地内の武内神社の下から、昭和54年（1979）に

線刻の石仏（各高さ22.5㎝内外）	12体
銅造舟形光背十一面観音菩薩立像（高さ10.5㎝）	1体
経石（お経の文字を書いた小石）	多数
板碑の頭部とその基部	（1基分）

が出土し多量の小石が確認され、また塚の構造も少し確かめられたのちその小石は埋め戻されました。その後、昭和63年に十三仏の石仏の残り1体も出土しました。

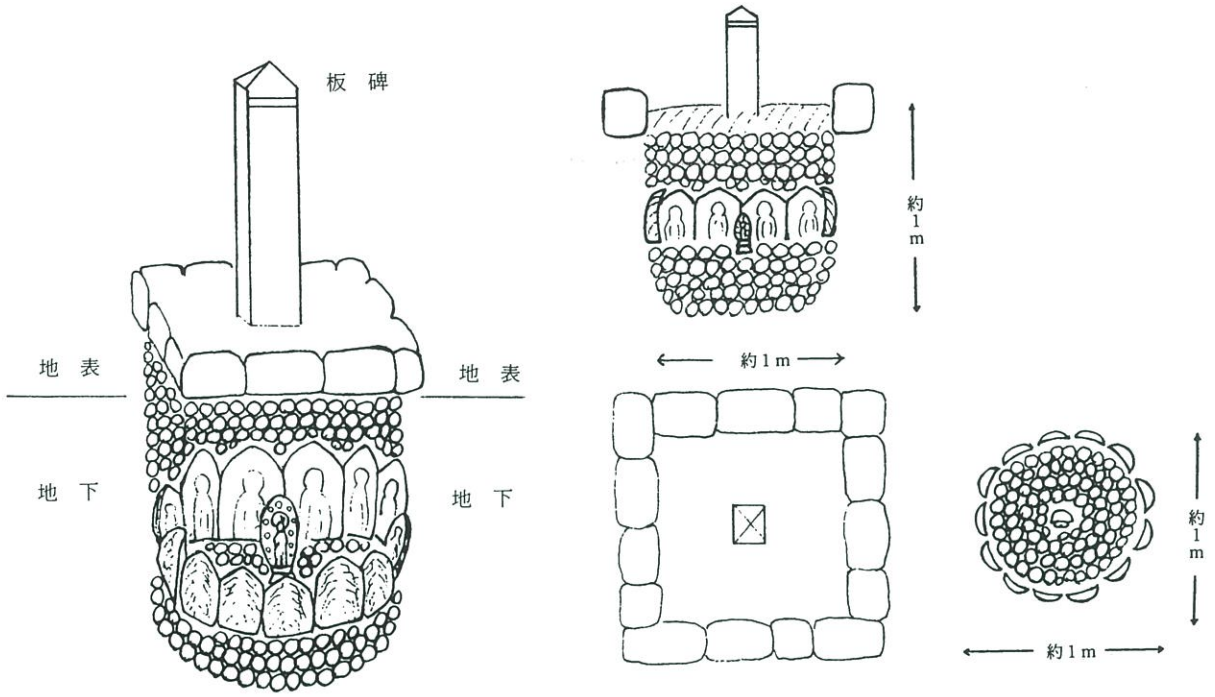
世間では経塔様などと言っている一字一石経塚ですが、十三仏が埋納されているのは珍しく、貴重な遺跡です。

▼埋納されていた十一面観音像

▼いっしょに出土した板碑の頭部

一字一石経は市内には薬王寺の東前寺境内、青柳寺浦の大日堂入口の旧唐津街道沿いの溝渕、また筵内医王寺の山門前方の丘には２基、同じく筵内山鹿の阿弥陀仏種子石塔の近く、その他掘り出されて消失したものもありますが、この経塚のように十三仏を埋納したものはまだ出ていません。十三仏は経石を納める周囲に壁のように安置されていて、カメの代わりにもなっていたのではないかと思います。

〈埋納されていた想像図（地主の話による）〉



経塚は武内神社の基壇の下に埋納されていたが年紀も見えず、施主や供養の対象も分らないが本町の一字一石経塚では最も古く、室町時代に遡るものと思われます。

近くに香椎宮が祀られており、このあたりは聖母屋敷という小字になっていて、小祠も点々とあり小山田斎宮の故地として古来、ケガレを忌む聖地とされてきました。それとの関連も考えられます。

十三仏は、冥界の審理に関わる13の仏（仏陀と菩薩）で、死者の十三回の追善供養を司どる守護仏として知られてます。

不動明王（初七日）	釈迦如来（二七日）	文殊菩薩（三七日）
普賢菩薩（四七日）	地蔵菩薩（五七日）	弥勒菩薩（六七日）
薬師如来（七七日）	観音菩薩（百ヶ日）	勢至菩薩（一周忌）
阿弥陀如来（三回忌）	阿閦如来（七回忌）	大日如来（十三回忌）
虚空蔵菩薩（三十三回忌）		